

■ 小学生と地域の防災マップ作成

広島工業大学

環境学部建築デザイン学科の学生17人が、広島県の中山間地域の小学4、5年生12人と一緒に地元のハザードマップを作成した。高齢化が進む地域で、豪雨災害などで逃げ遅れないよう地域コミュニティ防災を促すため取り組んだ。

北広島町の大朝小学校で、学生たちはワークショップ初日に近くを流れる中国地方最大の江の川が局地的豪雨で決壊する危険があることなどを説明。2日目には4班に分かれた児童に学生が同行し、学校周辺を歩き川を観察。大雨で本流が増水し支流の水が流れ込めなくなるバックウォーター現象が起きやすい地点などの情報を集めた＝写真。



学校に戻った後、各班で得た情報を1つの地図に書き足して完成させた。学生は12月に保護者に向けた報告会を行うことにしている。